

# 「神は聖です」

神田 満

はじめに

レビ 20:26

あなたがたはわたしにとって聖なるものとなる。主であるわたしは聖であり、あなたがたをわたしのものにしようと、国々の民からえり分けたからである。

神はご自分を指して「聖である」と語られました。つまり神を一言で表すならばそれは「聖」ということになります。今日の教会ではよく「神は愛です」とうたわれていますが、実は神ご自身が「わたしは愛だ」と表現されたことは一度もなく、すべて第三者的に表現されたものばかりです。しかもその数も決して多くはなく、はっきりと直接的に「神は愛です」と記されているのはIヨハネ 4:8 と 4:16 のわずか2ヶ所しかありません。一方この「聖」に関しては、神ご自身の口で5回（レビ 11:44、45、19:2、20:26、21:8）も語られており、第三者的に表現されているものや、神の所有を意味する、聖なる「地、民、会合、日、もの」なども数えあげるならば、その差は圧倒的です。ですから神を一言で表すなら、「神は聖です」と言う方がより適切であると言えます。そのような考えから、今回はこの「聖」についてヘブル的考察を試みてみたいと思います。

## 1. 聖の起源

「聖とする、聖別する、聖なるものとなる」という意味をもつカーダシュ(קדש)、この言葉が聖書で最初に用いられるのが創世記 2:3 です。

創世記

2:3 神は第七日目を祝福し、この日を聖であるとされた。それは、その日に、神がなさっていたすべての創造のわざを休まれたからである。

これは神の天地創造のわざの完成を記した箇所であり、またそれを記念とする「安息日」の起源となる記述です。このように「聖である」カーダシュは本来「安息日」神の創造、ご計画の完成を指し示す言葉であることが解ります。つまりカーダシュとは、「神は聖である」というような神の本質、性質を表す言葉というよりも、神の計画を、そしてその完成を指し示す言葉であると考えられます。

また上記の御言葉は、文法的に三層構造になっていると考えられ、神が天地創造の第七日目を、どのように扱われたかが、三つの動詞によって言い表されています。

神は第七日目を…	① 祝福された
	② 聖とされた
	③ 休まれた

聖書は一つの内容を言い換えて複数回繰り返す、その内容をより強調したり深めたりする技法、対句表現が多いという特性を持っていますから、その観点で捉えるならば、上記の三つの動詞は同義であると考えられます。

①祝福される = ②聖とされる = ③休ませる

このように解釈することができます。そしてこれをヘブル語に置き換えると

①バーラフ(ברא) = ②カーダシュ(קדש) = ③シャーヴアト(שבת)

となります。つまり第七日目が「祝福される」バーラフされたことが、「聖とされる」カーダシュと言い換えられ、更に「休ませる」シャーヴアトに言い換えられて完結している文章と解釈することができます。このようにカーダシュという言葉は、本来バーラフを補い、そしてシャーヴアトに補われる形で成立する言葉であると考えられ、これら三つの言葉は、一対となって初めて本来の意味を持ち、そしてその意味とは「安息日」、すなわち神の計画の完成を指し示すものであると考えられます。その根拠を立証すべく、これら三つの言葉の持つそれぞれの意味と、関連性について考えてみたいと思います。

## 2. バーラフ(ברא)

まず最初に「祝福される」バーラフについて考えます。この言葉は他の二つの言葉と違い、別の箇所ですでに使われています。しかもその対象は意外にも、空を飛ぶ鳥や虫、そして水中の生物たちに対するものでした。

### 創世記

1:21 神は、海の巨獣と、種類にしたがって、水に群がりうごめくすべての生き物と、種類にしたがって、翼のあるすべての鳥を創造された。神はそれを見て良しとされた。

1:22 神はそれらを祝福して仰せられた。「生めよ。ふえよ。海の水に満ちよ。また鳥は地にふえよ。」

しかしその後の創世記 1:28 で、神は人を創造され、祝福して、先に祝福されたものを含むすべてを支配するようにと命じておられますので、先の祝福は、人に移譲されたものと考えられます。

### 創世記

1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。

1:28 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」

これは最初の人アダムに対する祝福でしたが、彼とその妻エバが罪を犯すことにより、この祝福がまた他の存在に移譲されていきました。それがイスラエルの父祖、アブラハムです。

### 創世記

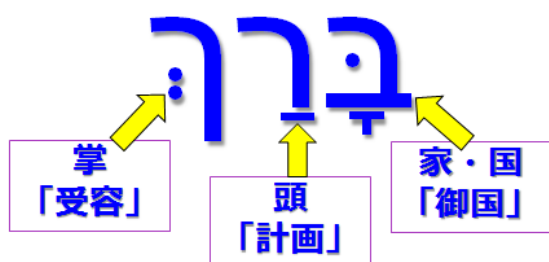
12:1 主はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。

12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。

12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」



この契約の成就が神の計画の完成を意味します。先ほどバーラフがカーダシュに、そしてシャーヴァトになって完結していると述べましたが、神が祝福する対象もまた移譲され、変化していることが解ります。最初の祝福の対象が、文字通りの鳥や虫や魚であるかどうかは少々疑問ですが、その対象がアダムに変更され、そしてアブラハムで完結していることに間違いはありません。そしてそれが神の国、御国を建てるという神の計画を指し示していることがバーラフを構成するヘブル文字から理解することができます。



- ・ベート(ב)は、家を象った「神の家、御国」を直接的に指し示す文字です。
- ・レーシュ(ר)は、頭を象った「思考、計画」を意味します。
- ・カフ(כ)は、手のひら、「受け取る、所有する」ことを意味します。

これら三つの文字がもつ意味を合わせると「御国の計画を受け取る」というメッセージが導き出され、アブラハムにその計画が提示されたと考えられます。しかしこれはあくまでも計画であって、まだ実現していません。この実現のために必要不可欠なことがあるのです。それが次の言葉、「聖とされる」カーダシュです。

### 3. カーダシュ(קדש)

カーダシュ、「聖とされる」とは一体どういうことなのかを、ヘブル的視点で考えてみたいと思います。アダムが罪を犯して以来、人は神と交わること、顔と顔を合わせて語り合うことができなくなりました。しかしモーセだけは別でした。彼はただ一人、それが許された、選ばれた存在でした。しかしそんな彼にも条件がありました。それは会見の天幕、幕屋の至聖所においてのみそれが可能となるというものでした。

## 出エジプト

33:9 モーセが天幕に入ると、雲の柱が降りて来て、天幕の入口に立った。主はモーセと語られた。

33:10 民は、みな、天幕の入口に雲の柱が立つのを見た。民はみな立って、おのおの自分の天幕の入口で伏し拝んだ。



33:11 主は、人が自分の友と語るように、顔と顔を合わせてモーセに語られた。モーセが宿営に帰ると、彼の従者でヌンの子ヨシュアという若者が幕屋を離れないでいた。

ですから幕屋以外の場所では、たとえモーセであったとしても、神の顔を見ることはできませんでした。つまり顔と顔を合わせることが許されず、ただ神の「後姿」のみ見ることが許されました。

## 出エジプト

33:20 また仰せられた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」

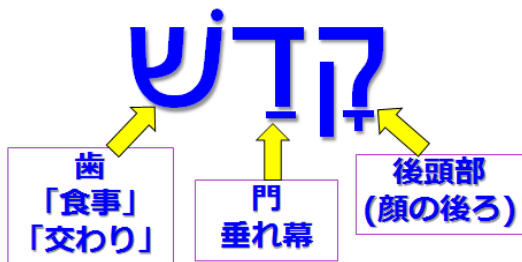
33:21 また主は仰せられた。「見よ。わたしのかたわらに一つの場所がある。あなたは岩の上に立て。

33:22 わたしの栄光が通り過ぎるときには、わたしはあなたを岩の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまで、この手であなたをおおっておこう。

33:23 わたしが手をのけたら、あなたはわたしのうしろを見るであろうが、わたしの顔は決して見られない。」



この事実がカーダシュを構成するヘブル文字の中に、見事に表されています。

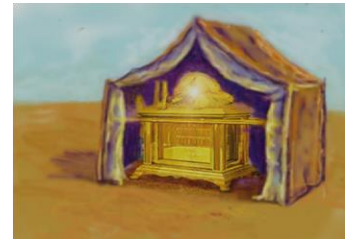


- ・コーフ(ק)は、後頭部を象った文字です
- ・ダーレト(ד)は、門、垂れ幕を象った文字です
- ・シーン(ש)は、歯を象った文字で「味わう、食べる」という意味から「会食、交わり」が派生します。

コーフが神の後頭部、つまり後姿を表し、ダーレトが幕屋の門、至聖所の垂れ幕を表していると考えられます。シーンは食べること、食事、すなわち親しい交わりを意味しているとするならば、神とモーセの関わりの様子が、見事に描かれていることが解ります。このように、モーセの幕屋を介して、神と人が交わる、これがカーダシュの示す「聖とされる」ことの意味、概念であると考えられます。しかしパーラフに表された神の計画はこれで完成ではありません。次の三つめの言葉、シャーヴァト(תּוֹשָׁבַת)を見てください。カーダシュで門と垂れ幕を表していたダーレトが取り除かれ、神との交わりを意味するシーンが、最も右、つまりヘブル語は右から読みますから、最も前面にむき出しになるような形で表記されています。これはもはやモーセの幕屋ではありません。ダビデの幕屋です。

#### 4. シャーヴァト(תּוֹבֵשׁ)

しかもこれはただのダビデの幕屋ではありません。「終わり、完成」を意味するターヴ(ת)がついていますから、終わりの日に建て直されるダビデの幕屋だと考えられます。



#### 使徒

15:16 『この後、わたしは帰って来て、倒れたダビデの幕屋を建て直す。すなわち、廃墟と化した幕屋を建て直し、それを元どおりにする。

15:17 それは、残った人々、すなわち、わたしの名で呼ばれる異邦人がみな、主を求めるようになるためである。

15:18 大昔からこれらのことを知らせておられる主が、こう言われる。』



このダビデの幕屋を建て直す方、それはもちろんダビデの子、イエシュアです。以下のように預言されています。

#### Ⅱサムエル

7:12 あなたの日数が満ち、あなたがあなたの先祖たちとともに眠るとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子を、あなたのあとに起こし、彼の王国を確立させる。

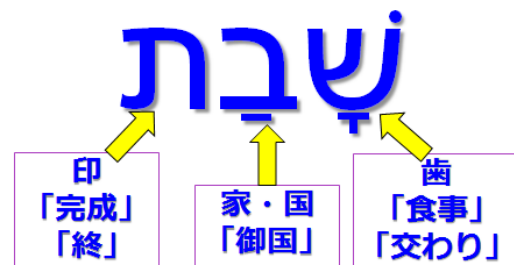
ダビデの子、人の子、メシアであるイエシュアの王国が確立する、完成する時こそが神の計画の完成、完了、もはや何も足さない、何も引かない、永遠の「安息」、それがシャーヴァトの持つ意味だと考えられます。

#### マタイ

12:8 人の子は安息日の主です。

そしてシャーヴァトを構成する三つの文字の持つ意味からも、同様の意味を見つけることができます。

- ・シーン(ש)は、先ほどのカーダシュにも使われていました。神との交わりを意味します。
- ・バート(ב)は神の家、御国です。
- ・ターヴ(ת)は、印を象ったヘブル文字最後の文字、「終わり、完成」の意味があります。



これら三つの意味を合わせると「神との交わりの家が完成する」という、素晴らしい福音のメッセージを導き出すことができます。

このように、創世記 2:3 に記されたバーラフ、カーダシュそしてシャーヴァトは、神の計画の全体像および完成を表すように順番に記され、それが天地創造の時点で、すでに表されていたと考えられます。

天地創造の七日目（神の計画の完成）		
祝福される	聖とされる	休ませる（安息）
バーラフ(בְּרָא)	カーダシュ(קָדַשׁ)	シャーヴァト(שָׁבַט)
アブラハム契約	モーセの幕屋	ダビデの幕屋

## 5. 聖の時代

以上の考察から、「わたしが聖である」と神が聖であることがご自身の口から何度も語られ、聖書全体においても神の聖性が強調される理由として考えられることは、神の計画において今の時代が、カーダシュに示されたモーセの幕屋型の時代だからではないでしょうか。たしかにモーセの幕屋も神殿も、現代においてはもはや存在しませんが、それらはすべてイエシュアを指し示すものです。イエシュアを信じて人は救われ、イエシュアの御名を通して人は神に向かって祈り、神と交わり、神を知る時代である今はまさにカーダシュ、「神は聖である」ことが強調される時代だと思われま



そう考えるならば、モーセが幕屋を通して、神と顔と顔を合わせて語り合えたように、イエシュアを通して、神と顔と顔を合わせて語り合うことができるのかもかもしれません。もちろんそれは誰でもができるわけではなく、これもまたモーセのように、神の主権による選びがあつてのことだとは思われますが、イエシュアだけが、神を知ることができる唯一の術、存在であることには間違いのないのですから、まさに神のカーダシュ「聖なる」書物であるこの聖書の中に、イエシュアを見出していくことが、聖書を理解する上で最も重要なことであると信じます。それは「心が燃える」体験だと聖書に記されています。聖書によって、イエシュアによって、私たちの心がますます燃やされますように。

### ルカ

24:27 それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。

24:32 そこでふたりは話し合った。「道々お話しになっている間も、聖書を説明して下さった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。」